

【C年】

聖霊降臨後第十九主日

特定二十四

主よ、どうかみ民の罪を赦し、豊かなみ恵みにより、弱さのために犯した罪の束縛から解放してください。天の父よ、救い主イエス・キリストのいさおによってお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は創世記第三十二章四節から」

4 ヤコブは、あらかじめ、セイル地方、すなわちエドムの野にいる兄エサウのもとに使いの者を遣わすことにし、5 お前たちはわたしの主人エサウにこう言いなさいと命じた。「あなたの僕ヤコブはこう申しております。わたしはラバンのもとに滞在し今日に至りましたが、6 牛、ろば、羊、男女の奴隷を所有するようになりました。そこで、使いの者を御

主人様のもとに送って御報告し、御機嫌をお伺いいたします。」

7 使いの者はヤコブのところに帰って来て、「兄上のエサウさまのところへ行行って参りました。兄上様の方でも、あなたを迎えるため、四百人のお供を連れてこちらへおいでになる途中でございます」と報告した。8 ヤコブは非常に恐れ、思いに二組に分けた。

9 エサウがやって来て、一方の組に攻撃を仕掛けても、残りの組は助かると思ったのである。

23 その夜、ヤコブは起きて、二人の妻と二人の側女、それに十一人の子供を連れてヤボクの渡しを渡った。24 皆を導いて川を渡らせ、持ち物も渡してしまうと、25 ヤコブは独り後に残った。そのとき、何者かが夜明けまでヤコブと格闘した。26 ところが、その人はヤコブに勝てないとみて、ヤコブの腿の関節を打ったので、格闘をしているうちに腿の間接がはずれた。27 「もう去らせてくれ。夜が明けてしまから」とその人は言ったが、ヤコブは答えた。「いいえ、祝福してくださるまでは離しません。」28 「お前の名は何というのか」とその人が尋ね、「ヤコブです」と答えると、29 その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」30 「どうか、あなたのお名前を教えてください」とヤコブが尋ねると、「どうして、わたしの名を尋ねるのか」と言っ

て、ヤコブをその場で祝福した。31 ヤコブは、「わたしは顔と顔とを合わせて神を見たのに、なお生きている」と言つて、その場所をペヌエル（神の顔）と名付けた。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

詩編

第一二二編

- 1 目を上げて、わたしは山々を仰ぐ＝ わたしの助けはどこから来るのか
- 2 わたしの助けは主から＝ 天地を造られた主から来る
- 3 神はあなたの足を堅く立て＝ まどろむことなく守られる
- 4 イスラエルを守る方は＝ まどろむことなく守られる
- 5 主はあなたを守り、近くにいまして＝ その陰はあなたを覆う
- 6 昼、太陽はあなたを撃つことなく＝ 夜、月もあなたを撃つことがない
- 7 主はすべての災いからあなたを守り＝ 命を支えらるる

8 主はあなたの出ると入るとを守られる＝ 今より、としえに至るまで

使徒書

朗読者 「使徒書はテモテへの手紙Ⅱ第三章十四節から」

14 だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、15 また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。16 聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。17 こうして、神に仕える人は、どのような善い業も行ふことができるように、十分に整えられるのです。

4 1 神の御前で、そして、生きている者と死んだ者を裁くために来られるキリスト・イエスの御前で、その出現とその御国を思いつつ、厳かに命じます。2 御言葉を宣傳伝えなさい。折が良くて悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。3 だれも健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、4 真理から耳を背け、作り話の方にそれて行く

ようになります。5 しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教師の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ルカによる福音書第十八章一節以下に記された主

イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならぬことを教えるために、弟子たちにとえを話された。2 「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。3 ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。4 裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかつ

た。しかし、その後考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。5 しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』6 それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。7 まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあるうか。8 言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」